

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192200012		
法人名	社会福祉法人黒松内つくし園		
事業所名	グループホーム絆-きずな-		
所在地	北海道虻田郡倶知安町南3条西1丁目17		
自己評価作成日	平成29年2月27日	評価結果市町村受理日	平成29年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Jigvo_syoCd=0192200012-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、倶知安町の中心部にあり建物内外部から四季折々に美しく移り変わる羊蹄山をご覧になられながら、家庭的な暖かい生活を送ることが出来る事業所です。また、1階部分には障害をお持ちの方の就労支援の場として喫茶店を営業しております。喫茶店には沢山の図書があり、同時にお子様をお持ちの方でも安心して利用して頂けるようにキッズルームも完備されております。その他にも地域交流スペースがあり、地域の方の会合や会議等に使用され、多くの地域の皆様方のご来店がございます。利用者様は、地域の皆様方との交流の場として、ご家族様との団欒の場として、ご自分の余暇時間の場として、ご自分のライフスタイルに合ったご利用が可能となっております。職員は事業所の基本理念の下、利用者様1人ひとりの思いを大切に、利用者様個人のニーズに合ったサービスの提供に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、倶知安町の中心街、3階建て建物の2階にある。利用者は、地域の人が集い、子ども達が漫画本を読みゲームを楽しむ1階の喫茶店に、自由に出掛け、家族・友人と心行くまで交流している。また、天気の良い日には、羊蹄山や花壇を眺めながらの散歩、希望に応じ近くのコンビニやスーパーでの買い物、花見や水族館、ウイスキー工場見学など多彩な外出行事が企画されている。特に、担当職員がその人のために企画した墓参り、食事会などの利用者向け企画行事は、家族との絆を深めるのに大いに役立っている。毎日の楽しみの食事は、アンケート調査による好みも反映された献立に基づき、旬の食材を職員とともに調理し、同じテーブルを囲んで会話をしながら摂っている。和風の趣きのある玄関を入ると、広い廊下、高い天井、快い温湿度、廊下に掲示する写真も、職員のちょっとした心配りにより見やすいよう大きく引き伸ばされている。どの写真にも利用者のたくさんの笑顔、満足した様子が伺える。家族へのアンケート調査でも、大変満足・満足がほぼ全員を占めている。理念に「一人ひとりの思いを大切に、あなたらしい生活の実現を共に目指す」と謳い、職員は、理念を実践に移すために、理念に沿った運営目標を掲げ、実践し、年度末には反省・評価の上に次の目標を定めている。その人のために、サービスの着実な向上に取り組む事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域・事業所基本理念と、ケア理念については毎朝ミーティング時に唱和を行っている。当法人の職員倫理綱領並びに、俱知安地区の職員宣言については、月一度の事業所合同会議にて参加職員全員にて唱和を行っています。	基本理念、ケア理念、倫理綱領を見やすい場所へ掲示し、唱和を行っている。毎年度、理念に沿った運営テーマを決定・実行・評価し、理念を実践に繋げるとともに、年々の更なる深化を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	非常災害訓練や、つくしんぼ祭りにて、町内の活動団体や町内会の方の参加や協力を依頼しています。また、1階分が喫茶店になっており、日常的に地域の方々と交流を図れる場となっております。	町内会の清掃行事への参加、事業所の祭りや非常災害訓練への地域の人々・活動団体の参加・協力、多数のボランティアの来訪がある。地域とのつながりを大切にしており、運営テーマの重点課題として、利用者との距離を縮めるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各種行事に参加をして頂いたり、学生ボランティアの受け入れを行っております。また、グループホームで企画運営する介護教室(事業所紹介・交流会)の実施等も行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのご助言頂きましたことについては、その月の会議にて報告を行い、ご助言に対する対応や対策など検討する機会を設けています。	複数の家族、町内会、民生委員、包括支援センター参加のもと、定期的で開催している。参加者の増加のため、開設記念行事に合わせ開催するなど工夫し、また、食事の試食を行い、評価してもらうなど、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	訪問する際に、担当者との情報交換や打ち合わせの機会を設け、意見の交換などを行っております。	毎月開催の町主催のケア会議に出席するとともに、担当者との面談の機会をもち、積極的な情報収集と信頼関係を築いている。管理者は、町の高齢者福祉計画の策定委員として、また、社会福祉協議会の評議員として、連携して地域福祉の推進に貢献している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、いつでも面会をして頂けるよう施錠はせず閉鎖的な施設にならないよう努めております。夜間に関しては、利用者様の安全を確保するために事業所内玄関の施錠を行っています。また、居室部分に関しては施錠機能がありません。	法人として、「身体拘束ゼロ宣言」を行い、「身体拘束廃止に関する指針」に沿って、身体拘束のないケアに努めている。研修の受講者は、会議での報告、復命書 of 全職員への回覧により伝達を行っている。また、言葉による抑制についても、職員同士注意し合って組織的に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修会にて高齢者虐待防止法や人権擁護について講習を行うほか、提供されているサービスの検証を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待防止法や人権擁護についての内部研修を開催し提供されているサービスの検証を行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行う場合は、常に疑問点や、質問事項について確認を行い、そのような場合には、ご理解や納得頂けるような説明等、ご利用者様やご家族様にも解りやすい説明に心掛けております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に日々のサービスや生活について、運営推進会議や、家族参加型の行事の際に意向を確認しています。その結果をもとに今後のサービス提供について検討を行い日々の業務の見直しなどを行っています。	家族へ、毎月の「陽だまり通信」の送付、半年ごとの担当職員から本人の様子・状況を知らせるお手紙、広く各種行事への参加呼びかけを行っている。多くの家族の訪問、行事や運営推進会議への参加があり、得られた利用者・家族の意向は運営に反映するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	委員会の設置及び会議を開催し、職員の情報の共有や意見反映を行っています。人事考課制度を導入していることから、年1回職員個人の目標設定をし意識向上に努めるとともに、3回ある面接の際には相談等も受け解決に向けてよう努めています。	行事等・給食・サービス提供の各委員会を設け、職員はいずれかの委員会に参加し、意見や提案を運営に反映させている。毎月開催のフロア会議・全体会議、自由に意見を書き込める連絡ノート、定期的な面談、複数の選べる相談対応窓口があり、意見・提案の述べやすい環境が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各事業所の会議や、給食・行事等の委員会の開催。事業所合同の会議、倶知安地区職員合同会議など開催し、職員の意見や意向を聞く機会を設けております。人事考課の際には、職員一人ひとりと面接し、意見や思いなどを聞き出せる機会をもうけております。夏季及び冬期休暇等の設立にも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各外部団体主催の研修会に参加を行うほか、委員会主催による内部研修会の充実や、同一法人施設の職員が事業所にアドバイザーとして来訪し、職員への助言や提言を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の各介護支援事業所や介護施設等の職員が集まるケアカンファレンスに出席し、意見交換や情報交換を行っています。各外部団体主催の研修会に参加を行うほか、委員会主催による内部研修会の充実や、同一法人施設の職員が事業所にアドバイザーとして来訪し、職員への助言や提言を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の前には、直接ご本人とコミュニケーションを兼ねた面接を行い、情報収集の機会を設けております。その際に、ご本人のご希望や思いなどを受け止められるよう努力を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、訪問や見学等の際には面接等を行い、お話を伺う機会を設けております。遠方の方の場合には、お電話でのご連絡や、E-MAIL等のご連絡も行うよう心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時やお電話での連絡時など、利用者様の近況をお話し情報を共有・把握し職員間での情報を共有することに努めています。ご家族様やご本人から相談を受けた場合、収集した情報を活かすことのできるよう支援させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前の面接による情報や日々の情報収集から職員間で情報の共有を行い支援できるよう努めています。ここにいる事、必要とされている事や生きることの喜びや楽しみを感じて頂き職員も楽しみや苦しみ辛さや喜びを隣で共感しお互いが支えられる関係を築けるよう日々努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、利用者様の心身の状態等の説明を行い、遠方のご家族様につきましてはお手紙やお電話、E-MAILなどによりご説明しご家族様と一緒に利用者様の支援をさせていただくよう努めています。毎月、行事やイベントの案内を作成し一緒に過ごして頂くお時間を作れるよう努力しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は、ごゆっくり過ごして頂けるよう居室・リビング、一階部分の喫茶店にご希望に合わせて支援させていただいております。また、ご希望時にはご自宅のご様子を見に行かれたり近所の方とのふれあえるよう支援させていただいております。	1階の喫茶店は、広く、漫画本が揃えられ、子どもや地域の人が集まり、格好の寛ぎの場となっている。馴染みの理美容院へ、電話の取次ぎ、年賀状の代筆、ドライブ中の思い出の場所への立ち寄り、家族とともに墓参りなど、一人ひとりへの支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、調理や清掃など入居されております利用者様が協力し支えあっていけるよう声掛けや見守りなど支援させていただいております。食事等には職員も一緒に召し上がらせていただき利用者様間をつなぐ支援を行わせていただいたり、お茶の時間や各種行事などを企画・実施することにより交流を深められるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護施設や医療機関など求められている各機関への紹介やご案内など、退所されてからも安心した生活を送って頂けるよう支援させていただいております。ご希望時には入所申し込みの代行なども行い、関係を断ち切ることのないよう支援させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話などからご希望やご本人様の意向を収集しアセスメントを行い、できる限りご本人様の意向添えるよう支援させていただくことが出来るように日々努めています。	本人との日常の会話、家族からの情報により思いや意向の把握に努めている。フェイスシートには、本人のこれまでの生活状況が細かく把握されており、担当職員が半年に1回更新し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面接による情報や、日々の会話など生活の中で情報を交換し、その方らしい生活を送って頂けるよう支援させていただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でご本人様のご様子や状態を職員間で情報の収集を行い検討した中で、行えないことに対しての支援や行えることに関しては、よりよい支援の提供など、利用者様にあった支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様・職員とが話し合い計画を作成しております。概ね3か月ごとに評価を行い、必要時や身体状態が変られた場合は随時変更しております。	毎日の個別記録をもとに、計画作成担当者を中心に全職員の参加する会議で、3か月ごとに検討・評価を行っている。介護計画は、本人・家族の意向、医師・看護師の意見を盛り込み、3か月ごとに見直すほか、身体状況に変化が見られたときは随時見直し、個々の現状に合った介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成しており、計画の見直しや日々の情報に役立てるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の付き添い・病院の付き添い・それに係る送迎など随時行っております。一階部分が喫茶店と地域コミュニティの場になっておりご希望時には喫茶店へ行きついで頂くと共に地域の方との架け橋になれるよう日々努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、町内の各行事に参加したりすることで、地域の皆様との関係を継続したり、親交を深められるよう支援させていただいております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入所前のかかりつけ医への受診を行って頂くことを基本としています。協力医療機関を定めているために夜間などの緊急時には受診も可能となっています。受診時は職員の付き添いを行いますので必要な情報の提供や医師からの助言等生活に役立てるよう支援しております。	協力医、入所前からのかかりつけ医の受診は職員が同行支援し、受診時の状況説明、受診結果の家族への結果報告を行い情報の共有を図っている。看護師も職員として配置して利用者の健康管理に当たっているほか、協力医療機関からの訪問看護を受け入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に4日看護師が勤務を行い、利用者様の健康状態や医療面での相談等を行っております。必要時には、受診の対応や医療機関との連絡調整を行い、より安心して生活を送って頂けるよう支援に努めています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時に、入院先病院の医師・看護師などから聞き取り等を行っています。また、ご家族からのご相談やご意向も随時受け、できるだけご希望に添えるよう努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	理念・基本方針を作成し職員に周知していると共にいつでも閲覧できるよう体制を整えています。実際に終末期と診断を受けた場合、医師・ご家族・ご本人様と職員で話し合い柔軟な対応を心掛けるよう努力していきたいと思っております。	入居時に、「重度化及び看取り対応指針」に基づき説明し、同意を得ている。最近、ホームにおいて看取りの事例はないが、看取り経験者を数名擁しており、終末期を迎えた時は、医師・家族・本人と職員で話し合いをもち、家族や本人の意向に沿うこととしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回、避難訓練等を実施し迅速に行動し早期対応を行えるよう実施しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施のほかに、会議後等の時間を利用し必要設備等の使用方法等を確認するとともに、日々防災意識を持つよう意識向上にも努めています。訓練時には、関係機関や近隣住民の方々も参加されています。	消防署の指導のもと、地域住民も参加し、火災避難訓練および夜間想定地震・火災総合訓練を年2回行っている。非常時における法人施設の連携体制、避難場所の周知、非常時備蓄を行っている。	災害時に備え、防火壁、脱出シュートの設置、停電発生時の対応方策などを検討・実施しているが、一旦災害発生時には、被害を最小限に抑えるため地域の人々の協力が必要不可欠であり、更なる協力体制の推進を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当法人の個人情報保護に関する基本方針に従い業務に努めています。また、お預かりしている貴重品に関しては金庫にて保管しケース記録書類についても鍵付きの書庫に保管しております。	ケア理念に、「利用者の歩んできたこれまでのを受け入れる」と認め、職員は人格の尊重について、研修で学んでいる。プライバシーに配慮した排泄マニュアルの作成、トイレにカーテンを設置するなど実体面でも配慮されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや日々の会話等から思いや希望を見出し、ご本人様のご希望に沿った生活が営まれるよう、支援を行い安心して生活を感じて頂けるよう努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活のリズムを大切に、日々声掛け等によりご希望等の確認を行い、ご希望に沿ったサービスを提供すると共に、職員間の情報の共有に努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容を行って頂けるよう声掛けや、できない部分に関しての支援を行わせて頂いております。行きつけの商店や理髪店等継続的に利用できます。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が行える部分は協力を仰ぎ食事の下準備や調理、助言を頂くよう努めています。職員も利用者様と食事と一緒に召し上がらせていただくことにより、会話への支援や楽しい雰囲気作りになるよう同時に努めています。	利用者のアンケート調査を実施し、給食委員会において、利用者の嗜好、栄養バランスを考慮し献立表を作成している。地域の人からのいただき物、旬の食材を取り入れ、利用者のお手伝いを得ながら調理している。外食、パンバイキング、焼き肉会など楽しい食事になるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に形態にあった食事を提供させていただき(嗜好に応じて代替え食の提供や、キザミ食やミキサー食の提供等)食事摂取量・水分量の記録を行い、特に水分補給量が少ない場合は、飲水を促すような声掛け等も行っていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにより歯磨きや義歯の清掃などを行って頂いております。口腔清潔や嚥下についての内部研修も実施しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、出来るだけ残存機能を活かしてトイレで排泄して頂くよう支援させていただいております。また、排泄パターンを分析しオムツ外しへの取り組みも積極的に行っています。	排泄パターンを把握し、オムツ外しの取り組みを積極的に行っている。オムツからリハビリパンツへ、そして、より小さい吸収容量ものへと職員は適切なタイミングで声掛け誘導を行なっている。オムツ講習会を受講し、コスト面でも負担軽減を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排泄の記録や水分の記録を行い、水分が少ない時には利用者様の好みの飲み物等、提供し促しています。また、一日に体操やレクリエーションなど身体を動かす時間をつくり健康で過ごして頂けるよう努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご希望がある場合は、毎日入浴して頂くことが可能です。	2日から3日に1回入浴しているが、毎日、湯を沸かしているため、希望に応じて入浴が可能となっている。入浴を嫌がる人は少なく、入浴剤の使用や職員と寛いだ雰囲気の中での会話など、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んで頂くため、プライバシーの配慮や室温の調整等を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服用されている服薬を書き出し、職員がいつでも確認できるようにし、必要事項を記入することによって納豆やグレープフルーツ等の食材が食べられない方への食事の提供を防ぐと共に、代替え食の提供などに努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の居室の清掃や調理や配膳や下膳などを、職員が声掛けし行って頂くよう支援させて頂いております。またケアプランに反映させることによって、意識的に支援していく事を職員にも徹底するようにしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ、希望時には買い物等へ出かけられるよう支援させて頂いております。その他にも散歩の機会を設け、気分転換を図ると共に地域の方とのコミュニケーションも図れるよう支援しております。1階部分の喫茶店利用に関しても、喫茶店職員と連携を図り対応を行っています。	希望に応じて近くのコンビニやスーパーへの買い物、天気の良い日の花壇を眺めながらの散歩、喫茶店でのお茶飲みなど日常的に外出の機会がある。花見などの季節の行事、水族館やウイスキー工場見学など多彩な外出行事が計画されているほか、利用者・家族・職員によるお墓参り、食事会などの個別行事は、お互いの絆を深めるのに役立っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、ご本人手持ち金を持たれています。管理が難しい方についてはお預かりし必要時にお渡ししています。使用した金額など聞き取りしたりし帳簿につけて記録しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内に電話機設置可能となっており、当事業所の電話の使用も可能としご希望時にご家族様やご友人様に連絡可能となっております。事業所の向かいにポストもあり投函もご自分で行えるよう職員が付き添い支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部などには、季節を感じて頂けるようその季節季節にあった飾り付けなどの設えを行っています。施設というより、ご自宅で過ごして頂いているような雰囲気作りにも工夫しています。	和風の趣きある玄関を入ると、ゆったりとした廊下、高い天井、温度・湿度も適正に管理され気持ちが良い。季節ごとの飾り付け、花、折り紙や貼り絵作品が四季折々の移り変わりを感じさせる。中でも、大きく引き伸ばされた行事の写真、利用者の笑顔が家庭的な温かさで迎えてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファとテレビを設置し利用者様同士やお一人でもご覧になっていただいたりお話を楽しんでいただけるよう配置をしています。食事を召し上がって頂く場所との共用のため、どちらも使って頂けるよう声掛けを行い過ごして頂いております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の面積がゆるすぎたりは、ご本人とご家族様と相談し過ごしやすい家具の配置や使い慣れた家具を持ち込んで頂いております。火器をお持ち込みの場合には、事前の面接やお電話等で説明させていただき、ご理解を得て頂くよう努めています。	16㎡の広い室内には、クローゼット、洗面台、ナースコールが備え付けられている。利用者は、馴染みのタンス、ベッド、テレビを持ち込み、壁には、家族の写真、人形、アイドルのポスターなど思い思いに飾り付け、自由にゆったりと、居心地よい生活を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内の廊下・トイレ・浴室等には手すりを設置し出来る限り自立した生活を送れるよう配慮を行っています。		